

フラワーガーデン

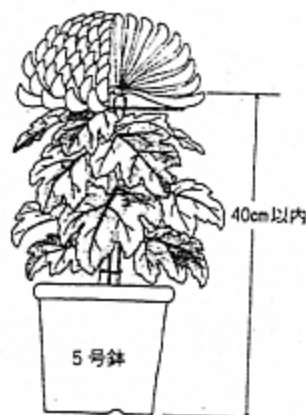


園芸総合センター
今出来 光志

キクの鉢植え栽培を楽しむ

菊の鉢植え栽培には、大菊三本仕立て栽培、だるま作り、懸崖作りなど多様な栽培方法があります。今回は、大菊栽培のうち最も手軽に取り組める、福助作りを中心に紹介します。

●福助作り



▲図1

福助作りは、図一のように、大菊を五号鉢で花首下四〇cm以下に育て、大輪に咲かせる方法です。

一 品種

白花	国華創雲、大芳千歳	兼六白菊、泉郷万勝
黄花	国華金創雲、国華時代、国華大宇宙	泉郷筑前、国華大宇宙
赤花	兼六香菊、大芳桃月、大芳桃の井、国華福徳	

一般に、早咲きで大葉の短(中)幹種で矮化剤に敏感なものを選びます(表一参照)。

二 苗作り

あらかじめ、発根苗等から株を養成しておき、六、七号鉢に鉢上げして親木とします。親木は六月上旬に摘芯して一枝から、わき芽を三、四本出させ、一わき芽当たりの展開葉数が十二枚以上ある充実した枝にします。

挿し穂は、その充実した枝の先

端部分七cm程度を折り取り、折口に発根促進剤を付け、縦横五、六cm間隔、深さ三cm程度に挿します。挿し芽の時期は、七月十日〜二〇日ぐらいが適当です。

挿し芽用土は、鹿沼土六、七、初殻くん炭二、一、砂二の混合土等の排水の良いものを育苗箱等に厚さ五、六cmに入れて用います。

三 鉢上げ

挿し芽後、約十二〜十五日で発根するので、三号のビニールポットに移植し、根が回った頃(一週間後ぐらい)に五号鉢に再度移植します(五号鉢に直接移植する方法もあります)。用土の配合例は、田土四、腐葉土二、キクライト一、サンポスト一、初殻くん炭一、砂



▲図2

一の割合の混合土等を用います。図二のように増し土のスペースを考え、やや深く植えます。

四 栽培管理

①栽培場所

栽培場所は、朝日がよく当たり、三時頃から日陰になるところが理想的です。また、できるだけ風通しの良いやや高めの棚の上等に、鉢を並べて置くと良いようです。

九月上旬までは寒冷紗を掛け、茎や葉の肥大を図るようにし、以後、十分に日光に当てます。

②水やり

水やりは、毎朝、十分に与えます。葉が大きくなって鉢の縁にかかるようになれば、葉を少し持ち上げて、培養土に水やりします。

鉢上げして四〇〜五〇日たつて根が鉢の中に十分回った頃に根詰まりを予防する目的で一〜二回、水を張ったタライ等に鉢を二〜三分浸けて水を吸わせませす。

③矮化剤処理

矮化剤は、ビーナインがよく使われています。処理方法は、鉢を

雨等の当たらない所に取り入れ、ハンドスプレーを使って二五〇〜三〇〇倍の濃度の溶液を芽先を中心に散布します。なお、ピーナイン感度の弱い品種や中幹種は、葉裏にも散布します。散布は風の無い晴れた日の夕方に行い、散布翌日は水やりをやめます。矮化剤の取り扱いについては、使用説明書に従います。

散布時期は一回目は、鉢上げおよそ十日後とします。薬効期間はおよそ一カ月ほどであるため、葉が切れかかる前を見計らって、十月上旬まで合計四〜五回程度散布します。発蕾後の散布は、蕾に薬がかからないように、特に注意します。なお、花首が伸びやすい品種には、筆で花首に薬を塗布する方法もあるようです。

④ 肥料

肥培管理は、定植後五日間は根を傷めますので行いません。しかし、その後は、肥料分が切れないように、薄めの液肥（ハイポネックス二、〇〇〇倍等）を五〜七日

間隔で九月末まで与え、茎や葉の充実をはかります。また、液肥とは別に、乾燥肥料を五号鉢上げ一週間目に一回、菊作り用の乾燥肥料を、小さじ一杯ずつ三方所に置き肥えます。その後、同量を前回と重ならない場所に、約十五日おきに二回ほど置き肥えし、これで乾燥肥料は、止め肥えとします。

⑤ シエード処理
展示会等に出品する場合、図三のようなダンボールを利用した簡易シエード又は、市販のシエード袋を利用して、夕方四時から暗くなるまで、あるいは日の出前〜朝八時頃まで、八月二四日〜九月五日まで毎日遮光します。これで、

一週間前後開花を早められます。⑥ 摘蕾
福助作りは、厚物も管物も芯蕾（花茎の頂点の中心に付く蕾）を残して咲かせますので、わき蕾は、早めに摘み取ります。ただし、芯蕾が破蕾するまで、すぐ隣に予備の蕾を一個残しておきます。芯蕾が破蕾したら、こまめに鉢回しを行い、蕾に均等に日光を当てます。

⑦ 輪台の取り付け

厚物系は、蕾がピンポン玉大になった頃、管物は花弁が少し垂れ下がってから取り付けます。大きさは花径に見合ったものとしします。

一 苗作り及び栽培管理

株を冬の低温に充分当て、地際から発生した芽を適宜、摘心して挿し穂を養成します。七月下旬頃に、長さ四cm位の穂を挿し、半日陰等で管理します。



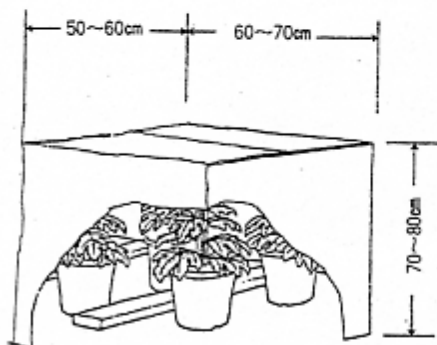
▲図4

五 病害虫防除

さび病、ダニ、アブラムシ類等に注意し、定期的に防除します。

鉢上げは、腐葉土等を含んだ清潔（消毒済）な土を用い、八月中旬頃、五号鉢に五本あて植え、二週間後に摘心し、後に一鉢十五本程度に整芽します。

肥料は、I B化成等を一鉢当たり八g程度施し、生育に応じて追肥をします。茎が伸び過ぎる場合は適宜、矮化剤処理します。灌水、病害虫防除は福助に準じます。



▲図3